

「第 15 回スポーツ環境会議」議事録（要旨）

令和 2 年 10 月 27 日（火）14:00～16:00
新宿コズミックスポーツセンター3 階 大会議室

1 出席者

1	今泉 清隆（区体育協会）	9	宮端 啓介（生涯学習スポーツ課長）
2	金子 和子（区スポーツ推進委員協議会）	10	青山 豊（新宿未来創造財団等担当第二課長）
3	山田 和男（区町会連合会）	11	小林 正明（障害者福祉課福祉推進係長）
4	徳堂 泰作（区障害者団体連絡協議会）	12	高橋 昌弘（地域包括ケア推進課長）
5	吉田 律子（区青少年育成委員会）	13	谷川 省一（子ども家庭課長）
6	野口 卓也（区中学校 PTA 協議会）	14	組澤 勝（健康政策課長）
7	関口 美緒（公募委員）	15	依田 治朗（みどり公園課長）
8	藤原 千里（公募委員）	16	齊藤 正之（教育調整課長）
		17	林 政至（教育支援課教育活動支援係）
		18	浅野 祐介（東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催等担当課長）

欠席者 6 名

間野 義之（学識経験者）
小菅 知三（区レクリエーション協会）
石川 寿一（区高齢者クラブ連合会）
本橋 弘康（区小学校 PTA 連合会）
根本 竜輔（スポーツ関連事業者）
小柳 俊彦（新宿未来創造財団）

机上配付

資料 1 スポーツ環境会議設置要綱
資料 2 スポーツ環境会議委員名簿
資料 3 区レクリエーション協会からの情報提供「新宿区レクリエーション・フォーラム 2020」
資料 4 教育支援課からの情報提供「部活動（クラブ活動を含む）を支える環境の整備について」
資料 5 東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課からの情報提供「新宿区における東京 2020 大会気運醸成事業の概要」「東京 2020 大会ガイドブック」
資料 6 新宿未来創造財団からの情報提供「みんなで走ろう in 国立競技場 事業計画」

2 事務局

新宿区 地域振興部 生涯学習スポーツ課

3 会議内容

(1) 開会

(2) 生涯学習スポーツ課長あいさつ

本日はお忙しい中、第15回スポーツ環境会議にご出席いただき、感謝申し上げます。

今般の新型コロナウイルス感染症の影響で、スポーツ施設の休館を余儀なくされ、イベント等も中止や延期が続く中で、皆様も色々ご苦勞されていることかと思う。そういった状況も踏まえて、このスポーツ環境会議では、皆様から忌憚のないご意見を頂ければと考えている。

(3) 座長の選出

金子委員が座長に選出された。

(4) スポーツ環境や活動に関する現状報告及び意見交換（要旨）

ア 各団体・委員からの報告

・区体育協会

新型コロナウイルス感染症の影響で体育協会は活動が減少している状況が続いている。健康を維持しないといけないため、各団体で一生懸命努力している。施設利用時には、各連盟ごとに定められたマニュアルに沿った形で各施設の利用を行っている。ただ、連盟に加入していない団体がマニュアルどおりでやっているか確認できないのが難しい。しかし、スポーツ施設の利用に際して、体育協会では感染防止対策の徹底を呼び掛けている。

・区レクリエーション協会

レクフォーラムは今年で5回目になる。コロナ対策として、今年は定員を昨年の半分にして企画している。今年も障害のあるなしに関わらず一緒に楽しむことをテーマに、障害者団体連絡協議会副会長の徳堂さんを講師に迎え開催する。是非各団体から1名ずつでも、どのようなことをやっているか見に来ていただきたい。

・区町会連合会

町会連合会も例年行っている各行事や会議が全部できなくなった。地域によっては、広い場所で順次行う予定が、学校施設開放も休止しているため、地域のスポーツ団体の利用者の方は再開を待っている状況である。

近隣の施設が使えないということで、高齢者の中には引きこもりになりがちになっている方が居るということを知ることが、だからと言って町会で訪問するというのも難しい。そのため、町会としてスポーツというより体を動かすとか、何か高齢者のためにできることを考えている。

・区青少年育成委員会

皆さんと同じように、上半期はほとんど事業を行えていない。下半期はいくつか事業を実施する予定はある。コロナ禍でどうなるかははっきりしていないが、事業を行うにあたっては、ソーシャルディスタンスを保って、健康チェックを提出させるとか対策を考えている。

また、小学生、中学生が対象でも、学校がお借りできない状態なので、事業の実施が非常に難しい。今後は何かできればと考えている。

- ・区障害者団体連絡協議会

障害者団体では、事業所に通っている方が非常に多いが、事業所自体がコロナ禍の状態、どうやっていくか、すごく難しい状況である。特に知的障害の方は、コロナ対策であるマスク着用等をちゃんと理解することも難しい。また、そういったことがストレスになってしまい、今までできてたことが集中できないとか、様々な影響が出てきている。

そんな中でも、運動プログラムを事業所でも考えて行っており、感染対策を行った上で、少しずつ体を動かすことをやれるようにしている。また、屋外でもスペースをとって、散歩であったりとか体を動かす機会をできるだけ確保しようということで、事業所ごとに努力している状況である。他にはスポーツでいうと、コズミックスポーツセンターで卓球をやらせて頂いたりというのは伺っている。

今後コロナがいつ収束するか分からない中で、競技によっては、ガイドラインを作るのは難しい部分もあるが、やはりそういったものはある程度考えて示していかないと、皆さんやりたいけど、どのように進めていいのかわからないという状況である。

- ・藤原委員

都内で重症心身障害者の支援活動をしている。

基礎疾患を持つ子が多いので、緊急事態宣言の前から活動をほぼ中止している。様々な活動が中止になっている中で、何処にも行き場のない状態になっている。今日のこの場で、今後の目途や今皆さんがどのように検討しているのか伺えたらと思っている。

- ・関口委員

私は元々大学でオンラインの授業を行っていたので、スポーツでもオンラインでトレーニングができています。オンラインにすることによって、時間とか気にせずに行えるようになるので、子どもやお年寄りを繋げることができたら、効率的かつ気軽に運動ができるのでは。

コロナ禍の中で効率が良くなったこともある。学生の中には自宅で SNS を使って運動をしているという話も聞く。これからは、オンラインを利用した運動実施など、これからの時代、何かを変えていけるのではと考えている。

- ・中学校 PTA 協議会

私は PTA で卓球をやっているが、活動ができていない状態である。

このような状況下で、スポーツをする習慣が無くなってしまったりすることもあるようなので、何ができるのか考えたい。

- ・スポーツ推進委員協議会

スポーツ推進委員も動けない期間を過ごした。

現在はパラリンピックの種目である「ボッチャ」を、子ども園や幼稚園を回りながら紹介してい

る。ゲーム形式とまではいかないが、「ボッチャ」を体験してもらって楽しんで頂いている。しかし、去年に比べると体験の時間は短くなっている。

会場については、これまで幼稚園や子ども園の中で行っていたが、今年は小学校の体育館など、広い場所に変更している。学校開放も校庭は再開されたので、地域交流会はやれる種目をぼちぼち始めている。今度中学校の校庭でグラウンドゴルフとテニスを行えるよう、現在準備をしている。それには、感染症対策のためチェック表や体温測定、消毒といったものを徹底する必要があるため、少しずつできることをやっていきたい。

イ 各課での取り組みについて

・生涯学習スポーツ課

皆さんのお話の中でも度々出てきたように、皆さんにスポーツをして頂く場を提供する立場としては、ご不自由をおかけして申し訳なく思っている。区立の屋内スポーツ施設や学校の施設開放は3月から休止になった。屋外でも、非常事態宣言の発出を受けて、4月8日から利用中止になった。

その後のコロナの状況を踏まえて、屋外スポーツ施設は7月から、屋内のスポーツ施設も7月15日から利用を再開したが、皆さんのお話にもあるように、利用前のチェックリストの記入であったり、消毒、マスクの着用だったり、色々な利用条件で不自由をおかけしている。

学校の施設開放についても、校庭開放は8月から段階的に再開している。学校の施設開放は外部の方が学校の施設に出入りすることから、動線が児童生徒等と被らないように、校舎内を使わないで済むような形で校庭開放を再開しているが、それでも消毒作業等は慎重に行っている。

この先体育館や特別教室の再開については、校舎内の動線等を慎重に検討し調整しているところであり、皆様から早く再開して欲しいとの要望を受けているが、なかなか万全の対策を踏まえた上での再開の目処がたっていないのが実情である。

その他イベントなども中止や延期、定員の縮小をしている。

この先もできるだけ皆さまのスポーツ活動の後押しをさせて頂くためにも、安全対策を万全にした上での開催の方法については、引き続き検討していきたいと思っており、今後も皆様との情報共有をお願いしたい。

・新宿未来創造財団

財団でも新型コロナウイルスの影響で例年やっているレガスまつり、スポレク、コミスポといったスポーツイベントが中止になっている。区民スポーツ大会については、9月に総合開会式を中止にするとともに、競技によっては大会自体も中止しているものがある。実施している競技は、主に屋外で実施できるものが多く、屋内競技はやはり場内の人数制限とのかねあいで実施が難しい状況である。

コロナ禍でも何かできることはないかということで、財団で行っている「レガスポ」という健康づくりのプログラムがあるが、「おうちでレガスポ」と題して、運動不足にならないようにと人気の講師がオンラインで体操を紹介するプログラムを配信している。

10月から少しずつだが、体育協会と連携したスポーツ教室を事前の申し込み制に変更したり、人数制限を行った上で活動を再開している。

次に配布のマラソンの資料をご覧いただきたい。毎年1月に開催していた新宿シティハーフマラ

ソンについては、国立競技場が使用できることとなった。コロナ禍の中で競技場の外に出て実施するのは難しいが、それなら競技場の中でできる種目を実施しようということで案を出させていただき、本日はご紹介する内容に変更している。予定としては、令和3年1月24日に国立競技場で行う。実施方法は、トラックの中だけということで、一般及び中学生は3,000m、小学生の低学年は1,000m、高学年は2,000m、それに加えて短距離やリレーも予定している。

開催に当たっては、感染症対策を徹底するために、予防対策マニュアルを策定して実施していく予定である。

・障害者福祉課

障害者福祉課では、例年12月上旬の障害者週間に開催している新宿駅西口での共同バザールや各障害者施設でのお祭りなどのイベントがコロナの影響で中止になっている。

バリアフリーの情報をいち早くお知らせしようという取組として、「新宿らくらくバリアフリーマップ」というものを作成した。これは、スマートフォンでも見られるようにしている。内容は区内の官公庁、商業施設等に設置しているトイレやエレベーター、スロープ等のバリアフリーの状況を掲載しているものである。機会があったら、是非皆さんにも見ていただきたい。

・地域包括ケア推進課

当課で行っている大きな事業である「いきいきハイキング」や敬老会等については、今年度は中止となってしまった。また、区高齢者クラブ連合会のお手伝いもさせて頂いているが、区高齢者クラブ連合会の活動についても、現在もなかなか行なうことができない状況である。

そんな中、地域交流館やシニア活動館については、4月から休館していたが、7月15日に感染対策を徹底しながら再開している。

また、地域交流館やシニア活動館で行っている事業についても、9月から少しずつ施設の利用状況を見ながら事業を再開したところである。

先ほど、町会連合会の代表の方からお話があったが、高齢者の方が外出を控えて、ご自宅に居ることで感染リスクを下げることができる一方で、引きこもってしまう状況もあり、このことについては、どういったことができるのか今後しっかりと検討していきたい。

その他、地域で様々な体操を行っている団体が活動を再開する際には、現地に行って会場の状況等を見ながら、ガイドラインに沿って再開している状況である。

・子ども家庭課

当課で活動を支援している青少年育成委員会の事業については、青少年育成委員会の代表の方がお話しとおりである。

保育園等の運動会については、保護者の人数を絞る等制限を付けながら、運動会あるいは運動に関する行事ということで、プログラムを縮小した形で実施している。

また、先ほどご質問のあった放課後子どもひろばの再開については、学童クラブをまず優先して事業を実施している。今後コロナの状況を踏まえて判断していきたいと考えている。なお、ご利用になりたいとか、子どもの居場所の関係でご相談したいことがあれば、子ども総合センターに連絡してほしい。

・健康政策課

健康部の事業においては、基本的に法定事業あるいはどうしても必要な事業以外については、制限している状況であり、その他例えば「新宿シティウォーク」などのイベントも中止している。

また、元気館は3月から休館したが、7月から業務を再開しており現在は感染対策を徹底するため、定員や事業を制限している。

その他区のホームページ等に、外出を控えて運動不足になりがちな方向けに、筋力低下を防ぐことを目的としたパンフレット等を掲載して、啓発を行っている。

・みどり公園課

公園については屋外施設ではあるが、人が多く集まり密になって不安だという要望があり、4月から6月までは区立公園でのグラウンドゴルフ等の団体利用、接触プレイが多くなってしまうスポーツコーナー、バスケットボールのゴールポスト、子どもが多く利用する公園の大型遊具は利用中止とした。

コロナ禍ではあるが、公園の改修は計画どおり進んでいる。

新宿中央公園の芝生広場の改修工事が終わり、7月16日にレストランとスポーツクラブもあわせてオープンした。利用者が芝生の上でくつろいだり、遊んだり運動したりと多くの方に利用していただいている。

・教育調整課

先ほど小学校、中学校の施設が使えないお話があったが、心苦しく思っている。現状をご説明させて頂く。

3月の全国一斉休校からスタートして、新年度の5月末まで学校を休校とした。そして6月から登校を再開したが、当初は分散登校ということで新年度の4月以降、概ね50数時間ほど授業時間が失われている。現在は夏休み期間を短縮したり、土曜授業を行ったり、そして行事関係、運動会をはじめ修学旅行や移動教室等全て中止というような対応をして、授業日数を確保している。

この間7月には区立中学校1校、9月には区立小学校1校で、学校内で感染者が確認されたことから、短期間だが休校した。

子どもたちの健康と安全、学習機会の保障を念頭に教育委員会含めて一致団結して、子どもたちのために取り組んでいる状況である。

学校施設の運用に際して、先ほど生涯学習スポーツ課長が申し上げたように、学校現場で感染者が確認された場合には子どもたちの学習機会が失われるという状況も想定されることから、施設利用を制限している状況である。なるべく早く新しい日常の中で、通常の間組として利用して頂けるようにしたい。

健康面及びスポーツ等の状況としては、実力を測ることを目的としたスポーツテストあるいは体力テストそれから障害者スポーツ体験、このような事業については、1月中までに実施する予定を、期間を延長して実施するという想定している。

またご承知のように、オリンピック・パラリンピックが延期されたことにより、当初は子どもた

ちが競技観戦を今年度行う予定だったが、今のところ実施自体も未定である。今後具体化されてから、子どもたちへの感染対策を踏まえて検討する。

・教育支援課

第14回のスポーツ環境会議でもご案内させて頂いたが、教育委員会で行っている部活動を今後地域の中でできないかという検討を進めていく中で、スポーツ環境会議の皆様と意見交換しながら、協働しながらできないかというようなことで、前回ご了承いただいた次第である。

その後、今年度になり教員の働き方改革PTの中に地域部活動検討部会というものを立ち上げて、その中で部活動を地域でできるかという検討をした。本日は、地域部活動検討部会の中で話し合われた内容について、情報提供させていただきご意見を頂戴しながら来年度以降の検討に繋げていきたい。

<資料4>をご覧いただきたい。まず、令和2年度の部活動指導員の配置状況、活動状況についてお示しする。部活動指導員の配置状況としては、現在12名を配置している。配置している部活動指導員は2種類あり週30時間勤務の常勤に近い形で配置している部活動指導員と、ショートタイムの部活動の時間帯だけ指導している部活動指導員の2種類ある。その定員は、30時間の方は3名配置、週6時間若しくは9時間という設定の中で配置している方は定員10名のところ9名配置している。主な内容としては部活動の指導、支援それから安全管理、大会への引率等を行っている。

配置の実績については、1校だけ配置できていないところがあり、中学校のバレーボールが現在配置できていないため、今も探している状況である。

研修については、コロナ禍で予定していたものができる訳ではないが、3学期若しくは2学期後半にできるものは今準備しているところである。

国の動きとしては、区に正式に報告があった訳ではないが、9月1日の新聞報道によって明らかになった情報を整理させていただく。部活動を地域で指導していくべきということを文部科学省でプランをまとめた。ポイントとしては教員の働き方改革の一環として、中学校・高校の土日の休日に部活に関わる運営業務を、学校から切り離して地域の民間団体に委託するということである。

2点目は、令和3年度かモデル校若しくはモデル地域で試行を開始し、令和5年度から段階的に全国展開を目指す。

3点目は、文部科学省からの委託を受けたクラブや芸術文化団体などが指導者を確保し、謝礼を支払って部活動を運営する。

4点目は、休日の指導を希望する教員がいた場合、兼業許可を与えた上で参加する。

また文部科学省としては、そういった兼職・兼業のあり方等々のルール作りを整理して、今年度中に示す予定である。今回のプランについては、公立の中学校・高校で考えられているものだが、高校は今の部活動のやり方を残すことも考えられている。新宿区においても区立中学校については、部活動というものが学校を選ぶ上でも大きな要因の一つとなっている、高校だけでなく中学校についてもそういった要素があると考えている。

こうした国の動きも踏まえ、東京都においても部活動を地域の方に委ねていく動きは徐々に出てきている。そういった中で新宿区では、来年度以降の取組をお示ししているが、実現可能性を検討しながら進めていきたいと考えている。

今日ご意見をいただければ、来年2月の地域部活動検討部会の中でご意見を集約し、次回のスポ

ーツ環境会議でご報告した後、4月から実施するという考えている。

- ・東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課

区のオリンピック・パラリンピック気運醸成事業について、あらためて紹介させていただく。

平成 29 年度から様々なイベントを実施しているが、大きいイベントは 1000 日前イベント、500 日前イベントというような節目のイベントを実施している。しかし、今年度はこういったイベントが実施できていない状況である。

次にカウントダウンのサイネージについては、コズミックスポーツセンターの 1 階をはじめ区内 14 か所に、3 年前から設置している。

次にシティドレッシングという取組として、本庁舎やスポーツセンター等の壁面に大会エンブレム等を活用した装飾を行っている。スローガンである「みんなの歓声 みんなが輝く」は、区内の中学生に考えてもらったフレーズから制作したもので、「みんなで選手に温かい声援を送りたい」「東京 2020 大会はみんなが主役になる」という想いがこもったスローガンである。

次にボランティアに関する取組として、区独自のボランティア登録制度「新宿 2020 サポーター」を昨年 5 月からスタートしている。今年はイベントが無かったため、活動自体できていないが、登録者は 400 人程度いる。

次に配電地上機器へのラッピングを今年の 1 月から開始した。区内 320 か所に子どもたちが描いたオリンピック・パラリンピックにまつわる作品を掲出している。

本来であれば今年の大会にあわせて、聖火リレーやコミュニティライブサイトイベント等を通じて、区民の皆様の記憶や思い出に残る取組みを進めていく予定だったが、大会の 1 年延期を受けて、あらためて来年のオリンピック・パラリンピック開催に向けてどういった気運醸成の取組みができるのか検討している。

(5) 各団体の連携について

- ・区障害者団体連絡協議会より

コロナ禍ということで非常に厳しい状況であるが、これから先いつまでこの状態が続くか分からない中で、子どもたちが活動したいという気持ちが強くある。そういった子どもたちが、どういった状況になればスポーツができるのか、前向きに考えていけたらと思う。せっかくのスポーツ環境会議という名の下でやっている中で、いかにそういう環境を整備していくか、皆で考える必要がある。

体育館などは非常に厳しい状況というのは分かるが、そこでしかできない競技もある、どんなことを注視すれば開催できるのか、ある程度スポーツ庁から通知が出ているが、大きなものしか見えてないので、地元のものがどうなっているのか、地域で活動する皆さんに指針を示してほしい。

4 行政からの連絡について

次回のスポーツ環境会議の実施日程、内容等は未定のため、決定次第お知らせする。